

第8期第4回河内長野市市民公益活動支援・協働促進懇談会 会議録

日 時：令和元年7月19日（金）14時00分～16時00分

会 場：河内長野市役所6階601会議室

出席委員：久、岡島、池西、柏木、田中、中村、山田、三浦

事務局：浦、緒方、内田、藤本、吉川、山本、芝

1. 開会

2. 案件

- ①平成30年度の協働の取り組みについて（報告）
- ②市民公益活動支援センターの第三者評価について
- ③市民公益活動支援センターの機能について
- ④その他

3. 閉会

①平成30年度の協働の取り組みについて（報告）

※資料に基づき事務局説明

久 会 長：はい、ありがとうございます。かなり内容は多岐に渡っておりますが、何かご質問、ご意見はございますか？はい、よろしくお願いします

岡 島 副 会 長：すみません。今ご説明頂いた中で申請が無かった補助金のこと、そのことと考えられる原因を教えてください。

事 務 局：補助金のハードコースにつきましては、地域まちづくり協議会が11協議会あり、そこを対象にさせてもらっていますが、平成29年度にソフト事業及びハードコースに多数応募があった反動が原因と考えています。

岡 島 副 会 長：そこはそんなに大きな問題は無い？

事 務 局：ハード事業は、実際やりたいという思いがあったとしても、様々な調整事項等をクリアしないといけないところがあります。検討しているまちづくり協議会はありましたが、実際応募には至らなかったところですが。

久 会 長：あと協働事業提案制度が2年続けて0件ですが。

事務局：今年2件あるところで、調整しているところです。今までの周知がうまくいったと思っています。今後2件分の書類審査を行いまして団体と調整した後、選定審査会を実施したいと思っています。

委員：よろしいでしょうか？今私が質問したかったのが2つとも出てしまったのですが、もう少し詳しく確認させていただきたいです。今会長の方からおっしゃった協働提案制度です。29年度にテーマが5件あり、30年度が1件。今年度は応募が2件あり、既に動いていると言う話ですが、推進をどのようにされたのかなど。推進された結果1件しか出なかったのか、特に何もしていなくて流れて1件ということなのか、どういう状況かと思ひまして。

事務局：周知は今まで通り、という形で広報紙やホームページを通じてやらせて頂いております。他の課からの相談の時に、この内容であれば、協働提案制度に手を挙げられるということで対応をやっておりまして、徐々に増えているという状況でございます。

事務局：すみません補足で。ここ何年か私の方も協働事業提案制度を見てきて、少し状況が変わってきているなと感じるところがございます。まず協働事業提案制度を導入した当時は、どちらかという協働にすることによって新しい事業を始めることで、予算を獲得していこうという流れで協働事業提案制度が活用されていたという風に考えています。ただ、ここ数年、財政状況が悪い中でなかなか新たな予算を生み出しにくいという状況で、去年一昨年ぐらいからは予算のない中で、どれだけ市民のニーズに合わせた活動ができるのかというものが増えてきていると思います。実際に2つ受けている分につきましてもお金を取りに来ているのではなく、例えばもう少し規制緩和して新しいことができないかという発想や、そういった部分の提案が出てきているのかなと言うことで、件数が少ないながら中身も少し変わってきていて、実際に興味深い取り組みも出つつあると考えています。

会長：はい、ありがとうございます

委員：少し些細なことですけど、全体的な様式のことです。写真がほとんど去年と同じですが、それは各まちづくり協議会から写真が上がって来ないと言うのか、写真を撮られていないのか、それを入れ替えによるコスト削減というか経費削減の一環なのか、比べてみると気色悪い感じがするのですが、なんで同じ写真が多いのでしょうか？

事務局：地域まちづくり協議会は、29年度30年度の取り組み自身は変わっていると

ころもあるのですが、事業内容自体が特別新たなことをしていないということもあります。もちろんご指摘ありました通り、実際は写真を入れ替えた方が良いということもありますので、31年度の協働の取り組みにつきましてはその辺もきちんと入れ替えるようにさせて頂こうと思います。

委員：いいですか？

久会長：はいどうぞ。

委員：協働事業提案制度の件ですが、この下にこれまでの成案化事業がありますが、これはどんなことをやっていたのか分かる資料は無いのでしょうか？例えばどっかでやりたいと思っても、どんな事が対象？という事が分からない。役所に来て聞けばある程度分かると思いますが、紹介する内容やどのような事で制度に合致したか分かると、促進されるのではないかと思います。それをホームページに掲載するというのですが、この地域もかなり高齢化していて、ホームページを見る人も少ないと思います。もう少しメディアそのものを考えていく必要があると感じます。あと協働事業提案制度そのものを知らない方が圧倒的に多いと思います。

事務局：おっしゃる通りホームページを見れば概要が載っていますが、協働事業提案制度をもう少し促進する為には、もう少し出し方というのはご指摘の通りあると思いますので、今後ご意見を踏まえて検討し、周知を徹底できるように努めていきたいと思っています。

委員：私もまちづくり協議会でやってみようと思っていますが、どのようなものが合致するかということが分からないので、申請できずにきています。

久会長：先程の話の整理ですけど、今兵庫県は地域ごとに補助金を出す制度があり、その中で芦屋市の3自治会が合同で申請された事例になりますが、自治会活動のIT化を目指すという事業です。40代役員の方々にそれに手を挙げてもらったのですが、やはりその若い方々にとって「もっとコンピュータを使いながら事務作業もやりたい」「情報発信も当然ながらコンピューター・インターネットでやりたい」ということで、そのような会計ソフトや広報をうまく発信するような道具というものを、情報に強いNPOと一緒に開発を進めるということをやっています。そういう意味では河内長野も事務作業の効率化も含めて、もっと地域活動のIT化も検討の余地があるのかなと思います。他いかがでしょうか？

委員：よろしいですか？11ページに載っています28年度何件、29年度何件、と件

数が載っていますけど、補助金を活用した事業で、今は無くなっている事業はあるのでしょうか？もしくは継続してやっているのでしょうか？その辺も教えて頂きたい。

事務局：ソフト事業もハード事業も単年度で終了する事業に対して、補助金の採択はされないので、現在もハード事業であれば、維持管理も含めて各まちづくり協議会に実施して頂いています。

委員：そうですか。

会長：はい、よろしいですか？他いかがでしょうか？それでは今のご意見を賜りながら今年度も前に進められるように頑張ってもらえればと思います。

## ②市民公益活動支援センターの第三者評価について

※資料に基づき事務局説明

会長：はい、ありがとうございます。いかがでしょうか？SABC は既に頂いて修正を加えていただいたということ、それから取り組みについては新規継続等を記載したらいかがでしょうか、というこの2つのご意見を賜っております。

委員：よろしいですか？改めてこれを見てみて、項目の中に取り組み・実績・成果・根拠と書いてありますが、この評価が期待以上とか期待通りという形になると、取り組みをやって、こういう実績になりましたということ。それがどこか目指すべきものがあり、努力した結果がこうなったのか、あるいは流れでやって定常業務みたいな形でやった結果がこうなのかということが分かり辛い。例えば取り組み・目標・実績という3つがあれば、その目標に対して十分に出来ているということが、定量的に数値的にも分かりやすいですけど、それは少しやり過ぎですかね？

会長：いかがでしょう？支援センターは数値目標作っていました？

事務局：数値目標は作っていません。

会長：その辺は今年度昨年度については間に合わないかもしれないです。

委員：数値目標は物によっても違うのですが、こういうことを目指している、こういうことを今年度はやろうとしているという狙いに対して期待以上に出来ているのか、期待通りに出来ているという評価があると思います。それがなかったら、こういう風な取り組みに対してこうなりました、それが期待以上にできているのかという評価ができるのかなと思うのです。それに関わっている方はできるかも分からないですけど、私は、それが本当に期待以上かどうかはよく分からない気がしました

会長：はい、いかがでしょうか？

委員：上に目指す姿・状態という項目がありますよね？そこが一応目標ではないですか？

委員：それは全容の話であって、個別にそのための成果と課題という所の項目なのです。全容だけであれば、粹ひとつなく書いたら良い話であり、それでは意味がないので。今会社であっても、最初に何をやるかということを経営に現すのです。それが数値的であれ文言であれ別にして、それに対してどう向かっていくかで結果がどうなのか。失敗の場合、うまくいかない場合いろいろありますけど、それがあった方が良いでしょう。そうでなければ、評価の所の SABC は何を基に判断すればいいのかなと言う感じが正直します。

会長：いかがでしょうか？書く側が、その作業に手間が掛かるか掛からないかというところもあるかと思うのですが、おそらく 1 シートの中の、先ほど委員がおっしゃった 1 番上のところが、その事業の組み合わせで達成できたのかどうかというあたりを評価するのであれば、一つ一つのところに目標を書いて頂くということではなくて、トータルで見させて頂くということになると思いますし、一つ一つにそれぞれの取り組みと成果を考えるということであれば、先ほど委員がおっしゃったように、一つ一つに目標が必要になってきます。

委員：確かにどういう風に評価するかによると思うのですが、この目指す姿というのが一種の方向性ですけど、それに対して協働促進に努めている、育成に努めているとなると、少なくとも期待通りになると思うのですが、これはベースにあるもので当たり前のこととして根幹をなすものですから、この取り組み項目が色々あると思うのです。去年このシートを見た時にはどうかなと思いつつも何も触れなかったのですが、改めて見ると分かりにくいのかなと感じました。

委員：確かにおっしゃることはわかります。大体問題があり、課題を見つけて、そ

れにコンセプトを作って、ソリューションにしてつなげて実施していくという流れですけど、ここではその辺が見えにくい気がします。なぜ取り組んだのかという部分が寂しい気がします。

委員：30年度に関しては出てきているので、もう間に合わないと言うことは、やむを得ないですけど、次のステップとしては何かそういうことをした方がやる側としても分かりやすいのかなど。もし私がそういうことを受けてやるとしたらどう向かっていこうと必ず考えますが、姿が見えないのですけど、事務局の方いかがですか？

委員：机こう向けたら見えるのにといつも思うのです。

会長：20個程度ですかね？取り組みの実施というのはこれで全部ですか？それぞれの目標を定性的に書いてくださいと言うことであれば、定量的には難しいと思うのですが、定性的にどこを目指しているかということを書いてくださいという事は書けるとおもいます。

事務局：この目指す姿・状態の部分と、その下の部分は紐付けるようにしました。1番左のところにある「ア・イ・ウ」は、またがっている分もあるのですが、どの目指す姿・状態の為にこの取り組みをするかという書き方をして、それぞれ見えるようにしています。おっしゃっている通り、それを定量化できるかという事になるとなかなか難しくなる項目が多いと思いますが、少しでも定量化した方があった方が良いということであれば、その辺を指定管理者と話し合い、目標設定できるものはしていくという事は可能かもしれませんが、全て定量化をしてそれに対して達しているかという事での評価は難しいと考えています。

委員：別に全てとは言っていないので。

事務局：そうですか。できるだけ多くと言う事で。

委員：そうですね、分かりやすく見える化という方向性のもとに分かりやすくした方が良いという感じです。

会長：これは、すべての取り組みがこの枠の中に入ることではないですね？何故なら、目指す姿の評価をする時に極めて重要な取り組みに関してをここに挙げて下さいとしているのか、関係しているものは全て挙げてくださいますかとしているのかにより、考え方が違ってくると思うのです。

事務局：サンプルとして①の情報収集提供だけしか今回埋めていないのですが、考え方としては目指す姿・状態があり、それに基づいて今回は落とし込もうとしている部分ですけど、既にやっている事業は一杯ありますので、今は目指す姿・状態を設定して紐付けしたという状況です。この目指す姿・状態に漏れた活動はあるかも知れないです。

久会長：漏れたというか、網羅するという観点でいくのか、あるいはここでいう「ア・イ・ウ」を説明するために非常に重要な取り組みをここに列挙していき、説明の為にこの取り組みを使うという考え方もあります。そうすると今のままだでも、このアを評価する時に、この下のアについている3つの項目を読み込んで、これに基づき、この情報収集をするという事が達成できているかどうかを評価できると思います。

事務局：前回のご意見を頂いたのはその趣旨だったと思いますので、目指す姿という部分について、まずこれが重要です。その為に紐付けという言い方をしてしまいましたが、その目指す姿・状態の為にやっている事業がこれですということなので、全て網羅しているとは限らないです。

久会長：そうですね。我々はこの目指す姿・状態の「ア・イ・ウ」について評価をする。その根拠として、下の取り組みと成果課題を読み込んでいくという理解でよろしいですか？

事務局：はい

久会長：そうであれば、先程ご指摘頂いた目指す姿・状態はここに書いているので、その大きな柱として、我々がデータ等を読み込んでいくということでしょうか？

事務局：はい

久会長：SABC はこれでよろしいですか。あと新規継続等を書き加えるということでしょうか？

委員：事業の質にもよるのですが、確かに新規の事業もあるのでそれを見分けるためにもあった方が良くと思います。

久 会 長：手間がかからないのは新規だけに新規と書いて頂く。

委 員：そうですね、手間がかかりませんね。

久 会 長：新規取り組みについては新規を記載頂くということにさせて頂きましょうか？あといかがでしょうか？

事 務 局：新規というのは全くの新規という事と充実という意味合いがあると思うのですが、新規分があるという意味合いで充実するものも新規ということでは表したほうがいいですか？

久 会 長：それは充実です。

事 務 局：新規充実と記載させていただきます。

久 会 長：あといかがでしょうか？よろしいでしょうか？そしたらただいまのご意見を賜ったものを反映して頂いて、作業に取り掛かって頂くということでよろしくお願ひ致します。

### ③市民公益活動支援センターの機能について

※資料に基づき事務局説明

久 会 長：はい、ありがとうございます。もう少し私の方から教えて頂きたいですが、ここで何をどの程度まで議論したらよろしいでしょうか？

事 務 局：実は先程の公共施設再配置のお話は、ここ数年で機能移転していくという流れがある中で、新たに機能移転した時のきっかけとして、市民公益活動支援センターがどの部分を支援していくのかということを変更してご意見頂戴したいということです。今までのご意見の中では、例えば「もう少し法人に対して支援が必要ですね」「ベースの部分をしっかり支援していく必要がありますね」というようなご意見を頂いています。他にも「地域型の方への支援もしっかりしていく」という様々なニーズが出てきている中で、今後本市の支援センターについての機能について、ここで意見を固めるということではなく、様々な意見を頂戴したいという趣旨で時間を設けさせて頂いたということです。

久 会 長：なるほど、たたきがあるということではなくて、場所の移転ということも1



つのきっかけに、もう一度改めてこの公益活動支援センターの位置づけ役割というものを議論させて頂くということで、フリーディスカッションという形かなと思います。

口火切りということで私の方から言わせて頂ければ、ここ数年で市民活動側の動きもかなり変わってきていますので、10年前はNPOを支援するということの一口で終わっていたのですが、今はそもそも法人格自体がNPO法人をわざわざ取らないという選択肢も出てきているのです。例えば一般社団法人が取りやすくなってきたこと、あるいはビジネス思考の方々は合同会社という選択をする方々もおられます。その為、社会貢献をする形がますます多様化をしてきているという事です。それに対して市民公益活動支援センターがどう対応していくかというところが、この数年の全体の変化の中で捉えていかないといけない問題であるのかなと思います。もう一つ設立当初から変わった状況として、課長さんからもご説明がありましたように、まちづくり協議会が立ち上がってきたという事です。そこに対してセンターはどういう形で関わってきたかというところも設立当初から変わってきているという事ですので、その辺も参考にして頂きながら議論をさせて頂きたいのですがいかがでしょうか。ご質問でも結構かと思いますが。

委員：この市民公益活動支援センターは、どの程度市民に周知されているのでしょうか？ご存知の方は知っているけど、結構知らない人も多いと思います。

委員：その通りです。確かに知らなかったです。

委員：私はずっと利用させて頂いていますが、そういうふうに思います。大体見る顔ぶれは同じです。だからもう少し知ってもらう為の工夫がいるように思います。

委員：その話で言うと私も地域の色々な団体に委員として入っていますが、私は一ぷらざで活動しているので「こんなことやったらここで悩んでも、一ぷらざに行ったら、すぐ解決する」と思うことが一杯あります。私が会議に参加している時にその話をしますが、「いやそんな事できるの？」とか「そんなところあったん？」という事がいまだに多いです。せめてお家にいる人ではなく、何かの活動なさっている方には「活動する際にはこういうところがあるよ」という事は、きちんと知っておいて欲しいという内容はすごくあります。でも会議の中では、ここの一ぷらざの話が出る事はまずないです。まちづくり協議会の方では作る段階の交流会で一ぷらざの人たちが入っていたので、ずっと来ていた人は知っていますが、ちょっと知る人ぞ知る状態で、個別の団体はほとんど知らないです。

久 会 長：その辺はですね、「市民」という一括りにすると見えてこなくなる部分があると思います。本当に社会のことにあまり関心のない方々も多数います。そういう方まで広報していくというのはなかなか難しいと思います。ところが今皆さんのお話を聞いていると、様々な地域活動・社会活動をやってらっしゃるにも関わらず、このセンターのことをご存じでない方がおられる。まずはそこだと思います。今日社会福祉協議会の方に来て頂いておりますけど、社会福祉協議会さんの方にも登録団体の方がおられて、それぞれのジャンル毎とか拠点として活用されているところ同士の連携がもう少しあったら、その辺は色々と周知が図られると思うのですね。だからそういう意味でセンターだけではなく、様々なところを利用されている団体さん同士がいかに重なっていくかということも今後重要なことだと思います。ちなみに私がお付き合いさせてもらっている中で「一番頑張っているな」と最近思っているところが明石です。明石のコミュニティー創造協会。ここはかなり形が違うのは、市がかなり積極的に関わって、立ち上がっている一般財団法人です。今の理事長さんも市のOBさんがいかれておりますし、初代の理事長さんは元助役さんです。副市長さんがいかれていて、かなり市が本腰を入れて立ち上げていたところです。何割かの職員さんは今でも3年間の出向で市の職員さんがいかれているという体制をとっています。かなり状況が違うにしろコミュニティー創造協会というのは、もともと今の資料頂いている都島区とか阿倍野区のようなまちづくり協議会の設立運営を支援するために設立されたのがコミュニティー創造協会です。ところが、去年から明石の駅前にあります生涯学習センター、それから市民活動センター、そして男女共同参画センター、ここが1つのビルに入っていて、その3館を一挙に指定管理を受けました。それでどういうことになったかと言いますと、もともと地域活動を応援してきた団体が生涯学習の指定管理を受け、男女共同参画の管理を受け、市民活動センターの管理を受けましたから、様々な団体が繋げられる。それぞれ個別でやっていた講座も繋げていけるという事です。その辺は見事に繋いでいっております。そういう意味では、この市民公益活動支援センターだけを見ているのではなくて、その生涯学習もあるいは男女共同参画も河内長野市にはあり、また、社会福祉協議会さんのボランティアセンターも含めて、そういう連携の中で市民公益活動支援センターをどう位置付けていくかという観点も、是非とも、もう一度組み立て直したいなというふうに思っています。

委 員：少し構図みたいな絵が欲しいですね。

委 員：1つの提案ですが、もし的外れであれば言って頂ければと思います。結局認知度が低いという事は周知活動が出来ていない、もしくは、周知活動そのものをやろうという形になっていないという事だと思うのですが、私もこれやるま

でる一ぷらざと言う名前は知っていましたが、何をやっているかは正直知らなかったです。それぞれボランティアをやられている方は、そのものは知っているけど、他の事は知らないという人が、ごく一般的だと思います。その為、こういうものがあつたら便利だよという事は、例えばこのボランティアやっている、色々な活動をやっている方も、本当に閉鎖的にそこの団体だけでやっている場合は少ないと思うのです。大概はどこか関わりを持っている。例えば社会福祉協議会さんと関わりを持っていたら、二次活動として社会福祉協議会さんから情報発信をして頂く。る一ぷらざからの情報発信だけではなく、そういうところで広がりを持ってこない。あるいは、もちろん市民広報に「こういう活動をやっていますよ」ということを載せたとしても広がりというか認知活動は難しいかなと。それぞれが更に二次活動として周知をさせていくということが出来れば、また変わってくるかなと思います。

委員：いいですか？

久会長：はい、どうぞ。

委員：今おっしゃった意見よりは少し下のことですが、私「る一ぷらざ」というのは3、4年前に初めてコピーしに行った時に、名前がなんでカタカナにしないのかなと思いました。これは2000年に公共の合併というか市の合併ができて政府の方が、平仮名の市が多数出来ました。大きな市でも平仮名でさいたま市になっています。今埼玉県さいたま市になっています。平仮名の所は非常に多いです。変な話ですけど、株式欄を見ていると、2000社位名前があっても、平仮名のところはほとんど無いです。皆自分の会社の人間は、自分のところの名前を売りたいわけですから、そんな分りにくい名前使わないですよ。皆ほとんどカタカナとかアルファベットの方がものすごく最近増えています。だから「きん でん」とかはまだ平仮名使っていますけど、「る一ぷらざ」という所は、キックスとかラブリーとか言ったらみんな分かりますが、「る一ぷらざ」というよりもカタカナを使った方がもっと認知度が上がったのかなと私は思います。

久会長：これは実は公募で選ばれたのです。

委員：当時やったから2000年位の時公共の合併ということで政府も肩入れ。

久会長：肩入れというか中学2年生の子の作品です。

委員：そうですか。

- 久 会 長：当時の皆が素敵だねということで選びました。
- 委 員：なるほど。カタカナの方が、認知度が上がるかなという気がしまして。他見  
ていても、市の施設は大体平仮名の施設が多いのですが、カタカナにした方が  
認知度という点では上がったのかなという気がしました。計画を見せてもらい  
ましたけど、5年以内にもしキックスの方に入れるとするなら、名前変えてもら  
ってやってもらった方が良いと思います。
- 委 員：いいですか？教えて欲しいのですが、この大阪市の都島と阿倍野の仕様書を  
付けて頂いているのですが、ここに「連携共同のための橋渡し役を担う中間  
支援組織としての役割」って書いてありますが、るーぷらざはここになるの  
ですか？これに当たりますか？
- 久 会 長：そうですね。
- 委 員：そうですね。
- 委 員：すいません、どこに書いてありましたか？
- 久 会 長：仕様書が2つありますが、都島の2ページの図を見て頂いた方が分かり易い  
かなと思います。ここの左の区役所の下に「中間支援組織」というのがありま  
すが、ここの事です。
- 委 員：なら尚更のことですよ。活動している人が知らないというのは。周知して  
いる側に責任があるかなと思います。
- 委 員：ここはなんか見ていたら「まちづくりセンター」というのを作られている。
- 久 会 長：だからこれが中間支援組織、その名称が「まちづくりセンター」です。
- 委 員：すごく分かり易いですね。誰が聞いても分かる。
- 委 員：その性格付けがいまいちはっきりしないですね。
- 委 員：もともと活動が地域というよりは、専門にする団体がメインに始まったので、  
どうしても地域関連に対しての関わりがやはり弱い気がしています。特に自治  
会は市の中でも担当係が別になっていたのも、時々は一緒にしていました。例  
えば何か1つイベントをします。このイベントは社会福祉協議会やキックスも

絡んでいるにしても、地域の公的施設に配置するとかは出ますが、自治会やまち協に対する宣伝感覚は、少し欠落している気がしています。というのは個人的に自治会の役員をしているので、る一ぷらざがこういうのを作ると回覧を回してとか、個別にしています。やはり自治会は回覧物を回してくれるなというところが多い中で、自分の自治会はオッケーだから回してくれます。そういう意味でも、間に宣伝感覚がある人が入ったらもう少し周知ができると思って、私も隣の家の人と裏の家の人にこれを渡したいと思い、個別に持ち歩いていますが、まだ渡せていないのです。そういう意味で言えば、まだまだ開拓の余地はあるかなと思います。

委員：まちづくり協議会は11ありますけども、そこにはやはりもう少し周知していく必要があるかなという気がします。「中間支援組織ですよ」ということを。

委員：それはどこが周知させるのですかね？こういう場合は行政か、る一ぷらざか。

委員：行政と協働になるでしょうね。

委員：情報の流れが少し分らないですね。

委員：各協議会には自治協働の人が必ず担当として入っているので、本来やったら確認して資料配りましょうという話で会議に持っていったらいいとは思いますが、そこが抜けがちなのかなと思います。

久 会 長：参考になるかどうか分かりませんが、人の問題もあって、その辺見事に繋がっておられるのは八尾市の市民活動センターの受託者ですね。受託されているNPOの理事長の西田さんですね。西田さんはその中間支援のNPOの理事長であり、一方で社会福祉協議会の副理事長であり、一方で自治会連合会の副会長でもあります。だから地域活動もしっかりやってらっしゃって、かつNPO活動もやっている方ですね。だからその人が、お一人で繋いでくださっている。社会福祉協議会の理事会にも出ますし、自治会連合会の役員会にも出ますから、そこで「そんなんやったら、る一ぷらざがあるじゃないか」って言ってくださいます。だからそういう掛け持ちをされる方が複数出てき始めると、多分その辺は重なっていくと思います。

委員：特に八尾市の社会福祉協議会さんはある件で知っていますが、色んな件について凄く積極的に情報発信を含めて活動されているみたいですね。

久 会 長：はい、他いかがでしょうか？

岡島副会長：いいですか？

久会長：はい。

岡島副会長：実際活動されている人で、る一ぷらざの存在自体を知らない人も沢山おられるということですが、認知度が低いというデータはあるのですか？認知度を尋ねたような機会が主としてあったのかというのが1つ。また、る一ぷらざさんでボランティアフェスティバルなど様々なイベントをやっておられて、例えばそういったところに傑出した個の方が色々な顔を持ちながら、社会福祉協議会にも、まちづくり協議会にも、ボランティア団体にも関わっておられて、大変凄いことだと思うのです。その一方で制度的に、そういう方がおられなくても周知が広がっていくってことも大事なことなので、例えば、これまでのる一ぷらざの広報活動の中で、あるいはイベントの中で、どういう形でまちづくり協議会の方たちが関わってこられたのか、関わってこられなかったのか。今実施していることを基盤にしながら来年度はこういう風にした方が良いのでは？等、そういう議論ができたらいいのかなと思います。具体的にはボランティアフェスティバルに、まちづくり協議会の人がどういう風に関わっているのですか？関わっていないのですか？

委員：前回までは、る一ぷらざが「活動展示しませんか？」という案内をしたところ、11の内の9の協議会が自分たちで作って展示してくれています。

岡島副会長：それでもまちづくり協議会の方は、る一ぷらざのこと知らない？

委員：各まち協の中でどこまで知っているか。三日市で言えば「会議ではしましょうね」となりましたが、結局作成に関わった人は3人ぐらいですので、耳では聞いていますが、役員の中でもる一ぷらざに行ったことない人はもちろん居ます。

岡島副会長：今の話でいくと、る一ぷらざは一定まちづくり協議会に対してアプローチもしているが、例えばまちづくり協議会の中で展示をするのもつつい数人でやるという事について、どういう形でそれをもっと広がりを持たせるためには、どういうことができるのか、または、来年度はどういうふうにもっとやっていけばいいかを考えることが必要ですね。

委員：る一ぷらざは、まち協に対して特に今まではないです。市民まつりでは、市の方が声掛けて、1回目は市が手取り足取りして展示出せたのです。2年目はどこも「やりたい」というところがなくて出なかったです。だから今回ボランテ

ィアフェスティバルという形に変えると、9つは地域で作ってくれた。だから平たく言えば専門テーマ型の団体にしているようなチラシとかポスターの作り方講座等をしてもいいのかなと思います。

岡島副会長：なるほど、そういう議論が大事ですね。もしそういうノウハウがまちづくり協議会には無いために、一部の人達だけで作って展示するということもあり、一ふらぎの認知度も上がらない。一ふらぎの活躍が出来ていないのであれば、変えていけば良いと思います。

委員：現実はそのに近いですよ。

岡島副会長：なるほど、それは認識をして頂いて変わってもらえないですね。

委員：一ふらぎに関係しているかどうか分からないですが、市の中では内部的に似たようなことをしているところがある。だいぶ整理されたとは言え、似たような対象に似たようなことを違う組織がやって、参画している人はほとんど同じです。そこをもう少しまくコーディネートして、人が重ならないようにして、違う質のことをやるのであればいいけど、同じことやるなら1つに纏めたらいいとか、そういう意見はすごく出ます。この間も健全育成会でその話をしたら、まち協と健全で調節する前に、子供関係の団体をもっと調節してくれという意見が出ました。その辺の細かい事は私知らないで、「ああそうか、そっちの問題がまだまだあるんやな」と思ったのですが、それは一ふらぎは直接タッチしていないと思いますが、そういうことが色々あるのかなと思います。

岡島副会長：会長ご自身がおっしゃった、他団体との、例えば社会福祉協議会と一ふらぎとの関係は非常に大事なポイントですね。だからどういった形で機能分化していくのか、あるいは重複していてもいいけど、それはどういうふうな形で繋がって、より高い効果を発揮して、実際その施設が場所移動してひよっとすると場所が狭くなる。それは全然知らないですけど、狭くなるかも知れないし、そうするとやっぱり一ふらぎの機能をきちんと整理していかないといけませんから、会長おっしゃるポイントは非常に大事で、これを具体的にはどうしたら良いですかね？変な話ですけど事務局にこう異なる関連団体の機能をちょっと整理してもらった図を作って頂いて、その上で我々がそれを理解しながら、今後はこういうふうになった方がいいかなという議論をした方がいいですかね。

久会長：様々な議論があると思いますが、例えば堺市も貸部屋を持ってない。こういう中間支援の機能だけのセンターは、あそこはコーナーと言っていますが、市

民活動コーナーは総合福祉センターの一角にあります。そうすると社会福祉協議会と常に連携が取れていますよね。場所が同じ場所にあるわけですから、そういう意味では社会福祉協議会のところに間借りをすることによって、機能的連携も図れるという選択もあると思います。だからキックスに行けばいいのかどこに行けばいいのか、男女共同参画センターに行けばいいのか、色んな選択肢があると思うのです。空いているから行きましようということではなく、戦略的にどこかに移すという考え方はありますけども。

委員：おっしゃることはよくわかりますね。

事務局：キックスの発想というのは「近くにある」という事は1つ大きなところですが、もともとキックスの中にはボランティア支援の機能はあったのです。何故かという「生涯学習によるまちづくり」という部分が所謂ボランティアだったりするので、当初キックスを作った時には、自分も含めてキックスの職員でした。ただ機構改革があり、当初立ち上がった時は市長部局であった生涯学習部門が、今は教育委員会になっているということです。紆余曲折はありますが、「生涯学習によるまちづくり」ということで単にボランティアをするだけでなく、裾野を広げていかないといけないということで言えば、生涯学習分野との連携はすごく大事なと思うので、今も入門講座をくろまる塾とか社会福祉協議会と連携をとってやっています。そういう発想を持っている中で、場所としてはキックスの方が施策の内容的にも連携取りやすいという考え方もあり、計画にはキックス等という形で記載させて頂いています。ただキックスになるかどうかという事は調整検討中なので、まだどうなるか分からない。ご意見頂いたとおり、他の選択肢もあり得ると考えています。

会長：あと山田委員のお話をお聞きして「子育てのグループを繋いでいこう」という話があったと思いますが、私もずっとここ20年近く河内長野の市民活動を通じて知っていて、ずばり言わせて頂くと、中間支援的に動かれる団体が非常に少ないというのは伝統的なところじゃないかなと思っています。それぞれの方は頑張っている方が多いです。でもその頑張っている方々を緩やかに繋いでいこうということが市民側としてもっとあったらなという風に思うのです。その基盤の弱さが多分繋がっていけないというところに来ているのかなと思うので、まずその全体をつなぐ前にそれぞれの分野ごとの活動団体を上手く繋いでいけるような人なのか団体なのかをもっと生まれてきて、それぞれの分野で繋いでいらっしゃる方がコアになり、る一ぷらざを運営していくという体制をやって頂くと、有機的に結びあってくるかと思っています。あとこれは、はびえるさんの問題なのでどこまで突っ込んでいいのかわかりませんが、理事会メンバーです。理事会メンバーに多様な方々に入ってもらって頂くことによって、多分理事



会の中で有機的に繋がっていくと思うのです。その辺は、私も理事を務めている明石のコミュニティー創造協会の話になりますが、毎年「次の理事さん、どなたにお願いする？」という戦略をかなりとっています。その明石市内に市民活動・地域活動のコアメンバーがいますから、その方々に理事会に入って頂いて、そのNPOの理事会が様々なものを繋げられるような形をとっていますので、色々なところで繋がる仕掛けを重層的に作っていくということが必要かなと思います。他いかがでしょうか？

委員：すいません、今先生おっしゃったように、る一ぷらざの理事会に地域の団体から役員が入り込んでもらってディスカッションしてもらおうというのは痛切に感じます。特にこの長野小学校区10区ありますが、9区まではだんじりを持っておりまして、区長会でだんじりの話で地元を盛り上げてやっていますので、なかなかまち協の中に自治会が入っていても自治会の方が上という感覚を持っています。まち協の言うことを聞いてくれない傾向があります。高向も三日市も千代田も皆だんじりあるわけですが、昨夜もキックスで説明会がありました。まつりで持っているような感じです。だから本当に長野のまち協に入った時に「まち協というのは商店街の活性化と駅前での活性化の話かな」と思ったけど、一切出なかったです。本当にる一ぷらざの認知度を上げるためには、先生おっしゃったような「役員として他の団体に入ってくれ」と言う格好で来てもらう方がいいと思います。

委員：少し乱暴かもしれませんが、この河内長野市立市民公益活動支援センターる一ぷらざを「まちづくりセンター」にしたら一気に分かると思います。乱暴かもしれませんが、性格づけがきちんと出てくるという気がします。これ難しい問題です。

委員：「市民公益活動支援センター」を「まちづくりセンター」にしたら、まち協だけの支援と勘違いされないですか？

委員：誤解されるかもしれません。

委員：当初出ていました。「まちづくり」はどちらかと言うと、ハードにまちづくりという名前を使っていたから、イメージが限定されるという意見が出ていました。

委員：「地域まちづくり協議会」を作られた経緯について、私が認識しているのは地域に色々な活動されている団体をネットワークしていただきという事が元々作られた基なので、そこを繋ぐと、全体にくもの糸のように繋がっていくとい

う図式が出てくるかなという気がしています。

委員：それが理想ですが、そうはならないですね。後から出来ていますから。

会長：少し話飛びますけど、例えばこういう話が具体的にあるのは、NPOとか色々なテーマ型で活動されている方々がまち協とか地域の活動に関わろうとした時に、ずっと地域活動をしていた方からクレームが出る場合があります。あの人は自分達の地元のことをせずに、自分が好きなことをやってきたという感情があり、「だから違うんや」と話になります。その感覚をお互いが歩み寄っていかない限り、大きな溝は埋まっていけないような気がします。だからそれぞれがそれぞれの文化伝統をお持ちなので、そこを繋いでいこうと思うと、お互いの文化を認めていかないといけない。そこがなかなか難しいと思っていて、そこを上手にる一ぷらざが支援して頂いたらいいと思います。先程のお話で言うと、宝塚は先輩であり、20年以上まちづくり協議会が出来ていますが、まだまだ上手く行ってない部分があります。長尾地区という所があり、ここも旧村がしっかりとしています。まちづくり協議会の役員さんにヒアリングした時に、新しいニュータウン側の方が言われたのは「旧の方々が区長会でしっかりと議論されているので、私達は発言の権利を持ってないんだ」と。つまりだんじりを引く権利も無いわけですから発言もできない。「まちづくり協議会はそういう新旧の区分なく議論ができ、その活動ができるので、そういう新住民にとってはまちづくり協議会という存在は非常によく分かる」と言っていました。だから旧の方々は旧の方々がしっかりとしたコミュニティーがある故に、新の方々がどういう思いなのかという事まで思い立ってないと思います。だからそういう意味では、旧がしっかりとしている長野のような所は、新旧の方々が分け隔てなく混じって色々な活動ができる1つのきっかけの場所として、まちづくり協議会を使って頂くと非常にありがたいと思うのです。

委員：ちょっといいですか？資料3-4のところでも今お話を色々聞いていて改めて思ったのですが、ここに「基本的な役割機能」というのが書かれていますけど、中間支援というのはもちろん「仲介機関」という言葉が入っていますが、全体的な中間支援というところになると、ここ書かれている内容はそれで理解できます。でも少し漠然としたところ、あるいは抽象的な表現もあるので、移転するならば1つの契機として、まちづくり協議会とかそういった関連付けですということであれば、それをもっと機能的に具体的に表現していた方が「何をすればいいのか」という事は明確になります。あるいは何をしているか、何をすればいいと言うよりかは、周りから見て何をしているか非常に分かり易いかなと言う気はします。このままでは少し抽象的かなという感じがします。

委員：そうですね。

岡島副会長：事務所スペースの貸与はこの主な機能の中でどこに入るのでした？る一ぷらざで2階で事務所スペースを貸していますよね？あれは交流促進ですか？

久会長：あれは育成でしょう。

岡島副会長：育成ですか？

久会長：団体のインキュベーションだと思います。

岡島副会長：インキュベーションか。

委員：インキュベーションになるのですかね。そういうところを貸して、どことどこの団体が話ししている。育成というのは広い意味なので「伸びるために」と言えば育成になりますが。

久会長：そもそもの発想は貸事務所的に使ってくださいという発想です。大体今まで市民団体の方は、自宅が事務所になっていましたが、それもなかなか難しいだろうということで、外に出たいと思っても家賃が高い。しばらくはあそこで安い家賃でスペースを置いて頂いて、そこで団体として育てて頂いたら、しかるべき賃料のところに移ってください、という目論見で2階は作りました。でもなかなかそういうニーズが出てこないということで「空いているなら、色々交流に使ってください」という話に切り替わったのは実際のところだと思います。

岡島副会長：実際使っておられる方がどんなふうに活動されていて、どういうふうに感じておられて、どういうことが1番大事なんやで、と言うと、正にエビデンスに基づいた条件が大事です。どこかに書いていたら、そのことを基にして議論すればいい。

委員：はい、論点が違うかも分かんないですが、せっかくこういうふうな話をしているので、名称は別にしても「る一ぷらざ」という機能があるにも関わらず、なかなか認知度があがらないという課題もあるとすれば、私自身ボランティアを2つほどやっていて、全体的に社会貢献をするという意識の醸成がされてないところだと思います。それこそ趣味で野菜作りをやっている、それが悪いという意味ではないですけど、まだまだ頭もしっかりしていて色んな経験を持っている人が、野菜作りだけしてそれを自分だけで楽しんでいる。社会資源としてもったいないことです。定年と同時にテニスだけしているとか。もっと社会貢

献をして欲しい。私よりもっともっと優秀な方がいるのに「貢献する」という意識が芽生えてこない。そういうところがこういうところにも関係していて、団体の活動やっていたら「これはこれでいいわ」という形になっているのかと。社会貢献の意識を醸成するにはどうしたらいいかは私全然分からないですけど、学識経験者や行政の方がもっと頑張っていてと意識の醸成がされるのかなと思います。私の仲間も本当に優秀な方が多いですけど、全く社会貢献をしていない人が逆に多いです。私が少しボランティアをやっているとえば、「なんでそんなのやってんねや」と言われます。河内長野結構そういう人が多いです。

岡島副会長：どこかにも出てきましたけど、SDGsの事を一ふらざでも関心を持ってやってくださっていて、私がそれに関して詳しいので呼ばれて行きますが、どうして出て行っているかと言うと、まさしくおっしゃったようなことです。SDGsを使ってやりたい事が、あるいは一ふらざがやっていけない事は2つあり、簡単にまとめると、1つは他人事をどう自分事に感じてもらうかという事で、SDGsが使えないかというようなことで1つやっています。もう1つはここで言うと相談助言コーディネート機能に関係すると思うのですが、そういうまちづくり協議会でもNPOさんでも、そのやっているサービスをどう質を向上させるかということが大事であり、それについてはSDGsの実施原則にもあります。それが少しヒントになるであろうと思って、SDGsをやっています。先程の他人事を自分事にするというのが、一ふらざさんが、あるいは私も行って少し手伝わさせて頂いておりますけど、どれぐらい成功しているのかということは、厳しく自己反省しながらきちんと振り返っていかないといけないと思っています。なかなか難しい。だから来ている人は見たことある方が多いです。結局、その人たちは他人事を自分事にしている人。だから違う人が来られることが大事です。

委員：文化ですね。

久会長：私はその辺はもうある意味割り切っていて2割位の方が関わって頂いたら、それで万々歳かなと思っています。5割も6割もいくことはないので、全然向いてくださらない人に無理矢理紐をつけて、振り向かしてもどうかなと思っています。ただ、その2割の方々がもっと横に繋がって頂きたいという感じがします

委員：今が何割か分からないですが、2割と言ったら確かに1つの動きにはなりますけど、今どれぐらいの割合ですか？

久 会 長：3%とかそれぐらいだと思います。

委 員：まだまだということですね。

久 会 長：先程も市民と一括りにしないほうがいいじゃないですかと言った理由はそういうところも含めてなんです。だから全員が同じように動くとは考えられませんが、でもせっかく入口まで来ている方を、みすみす失っているなという気がします。例えばくろまる塾なんかそうですね。学びに来られてその方々の出口として、もっと市民活動団体や地域活動団体が受け入れてくれると、もっともっといけると思うのです。私がかつて理事長をやっていた兵庫県川西市の市民活動センターは、例えばパソコン講座をやりますと、そのこの修了生の人に仕事を斡旋します。例えば地域活動団体に自治会がチラシ作ってと言っていますとか会計処理やってくださいと言っていますという事を紹介するのです。あとはお互いに連携続けてくださいということで、まず入口だけは仕事を斡旋させて頂きます。

岡 島 副 会 長：実際くろまる塾でやっている、るーぷらざ、社会福祉協議会と市役所の生涯学習課等が連携しているボランティア講座も、まさしくそういう参加される方々をどう市民公益活動に参加して頂き繋げるかということ、狙って考えるわけですけど、今のところ成功してないのが現状でしょう。

委 員：塾を受講した方のセカンドステージを上手く引っ張り込んでいくかということが大切。

岡 島 副 会 長：まさに講座としてはそれをデザインしています。そういうことを何とか狙っていますが、なかなか難しいです。

久 会 長：兵庫県加東市の生涯学習センターがあり、播磨地域と但馬地域位の方々に生涯学習の担当スタッフの方に集まって頂いて講義をするという機会を持たせてもらっていました。その中で高齢者大学が各市にあると思いますが、その職員とお付き合いして、あることを聞いたのですが、高齢者大学で勉強した人から学び足りないというニーズが出てきて大学院を作りましたと言っていました。それでも学び足りないと言われるといつまで学ぶんですかと思いますが、なかなかどうすればいいですかという相談を受けました。本当の大学をイメージすると、大学には就職担当キャリアセンターがあり、そこが就職を斡旋するわけですから、多分高齢者大学もそういうキャリアセンター的なところがあり、この団体いかがですか？ここはこういう活動ありますよという紹介窓口を持つのはどうですかという話をしたわけです。その為には紹介窓口の方が紹介する団

体のことを知っている必要があります。コーディネーター役が求められるわけですが、逆に先程の延長上の話になりますが、まち協が地域にとっては新人を暖かく迎えらるる雰囲気が出来上がっているのかどうかというところです。だからそういうところが上手く回っていけば多分色んな方々が活躍できるような場面が出てくるかなと思います。

委員：私の関わっているまち協はマンネリ化しています。人も。

会長：少し脱線話ですけど、私の知り合いが寝屋川の旧村に婿入りしたのですが、お婿さんですから色んな会合に出て行かないといけない訳です。違和感があると言うのです。本当に些細なことに違和感があるとおっしゃいます。それは何かと言うと、会合始まる前に色んな世間話があり、村の方々というのは皆知り合いですから「何々の息子がなあ、最近こうやってなあ」と出てきますが、その情報が分からない。一体誰のことを言っているのか分からない。私は外の間人だというように疎外感を感じると言います。

委員：村の人は下の名前呼びますね。

会長：そうですね。だからそういう意味で当たり前のことで旧村の方がやってらっしゃることが、外の方々に疎外感を与えているというお話を聞かせて頂いて、そういう意味では新人を迎えるというのはかなり慎重に、デリケートに考えていかないと難しいと思います。

委員：新人を迎え入れる雰囲気の為には、多分まちづくり協議会は役員さんとか、あるいは肩書は別にして中心になっている方っていうのは毎年入れ替わっていますか？

委員：入れ替わる方もいます。私のところのまち協は、大体自治会の代表が入る形になっているので2年ぐらいで変わります。

委員：まち協の中心になっている方が入れ替わると、わりと受け入れ易いと思いますが、場合によっては2年3年、あるいは関わった団体とかボランティアをやっている団体は、5年ぐらいずっとやっているボスみたいな形になってくると、村社会みたいな感じになり、あとの人が入りにくい原因になると思います。あと流動化することによって新しい人が来ても、違和感無くなると思いますが、他のまちづくり協議会は少し実態が分らないです。

委員：私の場合は自治会に関わってないのでもう8年やっていますけど、そういう

方もいらっしゃいましたが、段々と自治会色に染まっていつてしまっているのが現実です。その方が扱いやすいのかもかもしれません。

久 会 長：これは自治会やまちづくりに関わらず、市民活動団体も同じです。新しい方がなかなか入って来ないとおっしゃるのは、実は新しい方が入れない雰囲気を作り出しています。5年10年15年と経つてくると、惰性で回していますから。新しい方がなかなか入り辛くなってきます。

委 員：確かにそれはありますね。

久 会 長：だから自分たちで団体を新しく同じようなテーマの団体を作ることになってしまいます。

委 員：なかなか入りにくい雰囲気あると思うのですが、私もボランティア推進事業の担当者としてコーディネーター役もさせて頂いておまして、もちろん登録される方に対しては、るーぷらざの方に行った方がいいのかなとか色々させていただいています。本当にコーディネーターは人によってすごく変わってくるのかなということ、私は可能な限りその人が入り易いように、なるべく人と人が繋がって一緒に近づいてやっていきましょうみたいな形でやっていきますが、人によったらここ行ってくださいねと言って、一人で行かせます。長年やっている「わあ怖い」となってしまうがちです。とりあえず最初1回目は一緒に入りましょうとかしながらやっていくと、今所属団体にそんなに大きな減少はなく維持ぐらいで出来ていると思います。るーぷらざと連携するところは、最近本日来られているセンター長ともですが、お互いボランティアや市民公益活動のこととか一緒に話をし、なるべく繋がって、何かあった時にはすぐ連絡できる関係を築いています。ボランティア講座もですが、結構落とすところが大事で、講座開いたからおしまいというわけではなく、この講座が終わって、まずボランティアとはどんなかやってみようかというところであれば、ここに繋がりますよというところが大事なかなと思います。その辺はセンター長とも一緒に話をしながらさせてもらっていますので、そこで徐々に徐々にですが、市民公益活動支援センターるーぷらざもあるし社会福祉協議会もありますよという形でどんどん広げられたらということで、お話とか色々しています。

久 会 長：そういう連携事業が1つ繋がっていくきっかけになっていると思います。私と岡島先生は隣の富田林市でも一緒にさせてもらっていますけど、あそこは年1回ひろとんという大交流会を皆でやるので、色々な団体が一堂に会し、1日中様々なイベントやパネル展示をここ数年続けていますけど、そういうのはもっともっと河内長野でも展開して頂けたら嬉しいなと思います。そのひろとんの

実行委員会があり、実行委員会で色んな組立てをして、今年はどうするというのを具体的にやっています。その実行委員会そのものも交流の場になっています。そこの事務局の下支えを市民活動センターがやっているという事です。他いかがでしょうか？

委員：私、る一ぷらざの2階に1番最初から今までずっと事務所として借りているおやこ劇場の代表をしています。元々おやこ劇場は一軒家を借りて活動していましたが、段々規模縮小になり、る一ぷらざが開設する時に丁度入れました。今見ていたら事務所機能として認められていること、求められていることは、物の置き場という意味合いがかなり大きいです。あと、会議や色んなイベントの準備は共通スペースがあるので、特に個人的には要らないですけど、スポーツ関係もしているので皆さん競争になります。場所を借りるのというのは、フォレストでロッカー1つ借りるのも競争です。事務所がない団体であれば、物の置き場は個人で分散してしまっていて活動しにくくなるというイメージはあります。だからる一ぷらざでトモロスが1番大きい団体ですけど、トモロスは別に借りて、それでも足りないくらいになっています。事務所機能というのは、立ち上げ支援的な部分も最初はイメージとして大きかったのですが、蓋開けてみれば確かに支援ではなくて最後の終焉をどう迎えて、次はどう蘇るのか。火の鳥みたいに一度死んでまた生まれ変わる、その場所みたいになっているような感じもします

久 会長：今は特に若い人たちが中心にシェアオフィスを使っています。だから1団体ではしんどいのです。団体が金を出しながらオフィスを借りる、あるいはシェアオフィスの貸し方をしているスペースもどんどん増えてきています。シェアオフィスを借りる会社・団体同士がコラボして新しい動きがあるわけです。そういうシェアをするということは、そこで交流が起こって次のステップに行けるということが非常に私は重要だと思いますので、ここ数年出てきているシェアオフィスの形、あるいは機能、更にはその空間構成、何かそういうものも一つ参考にできるかなと思います。そういう意味では今の委員のお話で言うと、ものは喋りませんので、なかなか交流できないです。その為、倉庫になってしまおうとわざわざ取る必要があるのかなと私は「？」をつけたくります。

岡島副会長：私もそれは厳しいと考えています。先ほど「インキュベーションになるのですかね」というコメントがあったように、それは交流することによって+αがあるということをきちんと示さないと、なかなか厳しいと思います。

委員：入った頃は新鮮だったので交流して一緒に何かできないかと動いていましたが、マンネリ化して、また違う団体となってきた時には、ブーススペースでは



なく下の共通スペースで交流しています。例えばるーぷらざが主催する団体交流会にも必ず出席して、違う団体に声掛けて新しい道を探ってきているのかなと思います。

久 会長：最近各地で町屋とか長家を改造した、所謂リノベーションが流行りです。そのエリアリノベーションって言われる方々も出てきていますが、最近特に若い不動産屋が、すごく面白いのです。面白い物件を見つけてきて面白い人をそこに入れてもらうという繋ぎをやっていきます。まさしく彼らも中間支援です。貸し手と借り手を繋いでいますから、その人たちが単なる物件を貸し借りするだけではなく、人と人を繋ぐ役割をし始めると、まちが面白くなってきます。そんな機能があっても楽しいなと思います。その彼らが今言っているのはそういうエリアリノベーションに関わるキャラクター、性格というのがあって、4つのキャラクターを言っています。1つは不動産キャラといい、物件を動かせる人です。それから建築キャラといい、内装の工事ができる人です。それからグラフィックキャラといい、分かり易く表現できる人。4つ目が広報キャラといい、分かり易く発信できる人。多分建築は特殊ですけど、この4つのキャラを持った人たちが連携していくとまちが動き始めるという面白い説明されています。そういう不動産とか広報、グラフィックを支援するような役割というのはるーぷらざもあってもいいのかなと思います。先ほど委員からも分かり易い広報誌の作り方という話がありましたが、それをまさしくグラフィックキャラの人が分かり易さを伝授していくということになりますし、そういう機能もあってもいいのかなと思います。私も色々なところでまちづくりのお手伝いをしていて、結局、人の問題に最終的には帰着していて、人と人、特に面白い人や元気な人たちが繋がり始めると、どんどん相乗効果でまちが面白くなっていくので、そういう面白い人達にどう触手を伸ばしていくのか、ある人とある人を繋ぐ為にはどういう場所を作って繋がって頂けるような仕掛けをもっていくのか。そういうことを考えていくというのが、ますます重要な時期に差し掛かっているのかなと思います。

委 員：少し話が違いますが、公民館の運営委員をやっていて、何年前ですけど、春1番最初の時に行政の方に提案しました。それは、公民館を指定管理にして、例えばまちづくり協議会がそれを請け負うという形にしたらどうでしょうかということ。そうすると多様な人が入って来るから、そこで交流が生まれて進むと思いますという話をしたことがあります。公民館には図書館もありますし。提案した理由ですが、松江市が随分昔から協議会形式にして、市民に要は委託しています。運営をそういう形にするというのは、皆拠点がなくて困っていて、公民館は沢山ありますので、まちづくり協議会はそういうのと上手くマッチングさせていくと、拠点も出来ます。また、人が集まってくると必ず交流

が生まれる。繋がりも生まれてくるし良いと思ってお話ししました。それはその時の話で終わりました。

委員：そうですか。川上では5月からコミュニティーサロンを作りたいという方が出てきました。今のお話と同じように。朝10時から4時までの1日を月に1回か2回。それでお茶がまず出てお菓子ぐらい。あとは孤食の人の為にお昼ぐらい一緒に食事出来る人。そのような話が出てきて、今各所を見学させて頂いて勉強の最中で、皆さんが色々なことをおっしゃっていることを、これから川上はやっていかないといけないとつくづく実感しております。

委員：もう動き始めていますか？

委員：はい始めています。

委員：いいですね。

委員：言い出した方がものすごく力のある方で、何が起こっても心が曲がらないししっかりした方ですので、一緒についていき、頑張ってみ学しております。

委員：そういうのいいですね。

委員：最初キッチンが要るかと思い、喫茶店を伺ったのですが、1日借りるのにお金が必要になります。そこで社会福祉協議会で公民館を借りると全然お金が要らないことになるので、後援をしようかということになりつつ、まだはっきりといった絵は出来ていないですけど、少し話が出てきています。

会長：そういう知恵を伝授させて頂くのも、る一ふらざの役割です。「こうやったら安く行けますよ」とか「こういうところからお金出ますよ」というそういうところですよ。

委員：今、社会福祉協議会に色々お伺いしています。

委員：福祉と密着に関係しますしね。

委員：そうですね。

会長：ついでお話しすると、生駒の鹿ノ台と言うニュータウンの自治会の方が来られて、イオン財団の助成金を出したいので推薦者になってくださいというご

相談があったのですが、そこで色々お話しさせていただく中で、その自治会は総務省のモデル自治会の事業を取って来て、色々な事業をやっているところです。市役所に行ってもなかなか国の補助金まで教えてくれないと言います。様々な所が補助金を出していますが、あなたが今やりたいことであれば、ここから補助金が出ますという情報を一元管理して教えて頂くのは、る一ぷらざの本来の役割だと思います。それにも限界があって行政情報は行政職員の方が詳しいので、その行政職員が持っている情報をる一ぷらざにうまくお渡しをするというところの連携を、これからもっと密にやって頂くと良いと思います。多分庁内文書で色々回ってくると思いますが、各省庁がこのような補助金出しましたという情報はる一ぷらざにはいっているのでしょうか？

事務局：市の方にも全てが届くわけではないので、全てでは無いかもしれませんが、ある程度市の方から情報提供しています。

委員：少し教えて欲しいですけど、宝くじの助成金ですが、市の方に申請すれば出るのですか？る一ぷらざのに申請すればいけるのですか？

事務局：あれはメニューが何個かありまして、原則として市が予算化しないと行けないというルールがあります。例えばコミュニティーのルールであれば、集会所を建てるという場合と、備品の場合と両方あります。私共もそれを使っています。例えば集会所を新たに建てるという部分については、申請をすれば補助金がおおりるので、使って建てて頂いている団体さんがありますが、備品については補助金制度を持っていますので、その一部に充てたりしているので、実はもう市の方で使わせて頂いているのが現状で、優先順をつけて自治会さんの方には還元しているという状況です。

委員：そうですか。なるほど自治会の会館で、例えば冷蔵庫を購入する場合、自治会がお金出して、市の方は補助金出して頂けるという格好の中で、宝くじの助成金を使うと、自治会の費用が要らなかったという話を聞いたことがありますので。

事務局：はい。我々は事前協議ということで、次の年に備品を買いたい分は事前に頂いています。頂いている中で宝くじの申請に挙げた方が良いだろうという分をピックアップします。それは、例えば机や椅子、汎用性の高い分についてはピックアップして宝くじに申請してもらおう。それ以外の分については、市の制度で2分の1を出すということで、市の中で振り分けさせて頂いています。

委員：そうですか、それで分かりました。

久 会長：他いかがでしょうか？時間もいい時間になったので、こういう発言などをまた参考にしてもらえると幸いですし、こういう話題が投げかけられたということもありまして、皆様も他市の市民活動センターやそれ以外の施設も覗いて頂けた時に、このスペース素敵だなというものがありましたら気に留めて頂きまして、今度移るときにはこんなスペースもあったら良いなという意見を持ち寄って議論させて頂ければ良いのかなと思います。私も最初からプランニングさせて頂いておりますけど、既にスペースが限られていましたので、自由度のないところで作っていますので、今度はもう少し自由度のある所を使わせて頂けるのであれば様々なことが出来ると期待しています。事務局が本日投げかけて頂いたのは、説得力のある提案ができるのであれば、もっとしっかりとスペースを取りに行けるかなという思いもあってご意見を賜っていると私は理解していますので、また継続して色々な話ができたらいいなと思っています。その他、皆さんの方から何かありますでしょうか？無いようでしたら、丁度時間的に良い時間になりましたので、これで終了させて頂きます。ありがとうございます。